

# 行雲流水

No. 113 令和3年10月21日発行

## 心に向き合う その1

校長 寒河江 正人

今週は、校長として、うれしいことがありました。

3年生の<sup>あんどうしょうせい</sup>安藤翔生くん、<sup>したらあさひ</sup>設楽旦陽くん、<sup>さいとうはるく</sup>斉藤暖空くんが校長室を訪ねてきました。

**「今日は、こうして時間をさいていただいてありがとうございます。」**と、実に紳士的。

さて、その意図は「**どうして合唱コンクールではなく、合唱交流会なのですか。**」

**「コンクール形式にした方が、もっと本気を出してがんばると思うのですが。」**

**「学年や学級の先生以外の方から講評をいただきたいです。」**といった旨の相談でした。

きっと3人とも3年生として、**いい合唱をつくりあげたい**という思いで、校長室を訪ねて来てくれたのだと思いました。

まず最初に「**ここに来る前に、だれか先生方に相談してみましたか？**」と質問したところ、

**「だれも答えてくれませんでした。ただ決まったことだからと言われました。」**とのこと。

そこで、説明してくれる人がいなかった（うまくきちんと伝わらなかった）ということは

**「それは、校長として、とても残念なことだと感じます。」**と答えました。

そもそも「合唱」という活動そのものが、激しく呼吸し、大きく発声する必要があることから、文科省・県教委ともに「感染リスクの高い活動」になりかねないことから、国・県から発出された通知やガイドライン等に基づいて、特段の配慮をして行わねばならないと指導されています。

コンクール形式で一斉に最優秀賞・グランプリをめざして**賞の争奪戦**を行うことは朝練習・昼休みの練習・放課後の練習の別なく、**過熱・エスカレートすることは避けられません。**

その結果、**歌声の習熟度が増す**一方で、生徒一人ひとりの体力気力には個人差があるので、**生徒の疲労度も著しく高まります。**

ちょうどこのシーズンは、**急激に寒さが強まり、体調を崩す生徒が増える時期**なのです。こうした状況を私は30年以上繰り返し目の当たりにしてきました。

(その2に続く)

# 行雲流水

No. 114 令和3年10月21日発行

## 心に向き合う その2

校長 寒河江 正人

(その1より続く)

現在でこそ一時に比べ、コロナは**小床状態**にあります。が、**感染力の強いデルタ株**による感染者は、未だ**断続的に県内各地で発生**しています。

本校の場合、今は生徒諸君や保護者の皆様が感染防止を徹底してくれているので本校から感染クラスターは発生していませんが「**いつ本校で出てもおかしくはない。**」「**もし出たら、ひとたまりもない。**」のです。

そうになったら、やっと実施できた3年生の研修旅行だって「中止」となっただただろうし、来週の合唱はおろか、「**学校自体を臨時休校の措置**」にしなければならないのです。

こうしたことを総合的に検討・勘案し、「**法令に定められた教育課程編成の責任者**」として、「**合唱の練習の場と時間**」「**当日の実施方法**」などを制限しました。

「**わらい**」も「**(たとえ他校が合唱を中止しても)本校からは、歌声の灯を絶やさない。**」「**(形式にこだわらず)合唱の楽しさ・ハーモニーの美しさをみんなで味わう。**」「**学年・学級の枠を越えて、お互いの歌声の良さや努力を称え合える心を育てる。**」として、「**合唱交流会**」とすることを判断したことを説明しました。

併せて、次の2点も再確認しました。

まず、体育館の広さには限りがあるので全校生徒が一堂に会する時間を最小限にするため、本来であれば、全学年を「**生**」で聴かせたいところですが、1・2年生の演奏は事前録画し、リモート視聴としたこと。

だからこそ、何よりも3年生の演奏はその歌声を1・2年生には「**生**」で聴かせたいので「**さすが、3年生の歌声だなあ。**」と感動させる演奏を1・2年生に伝えて欲しいと願っていること。

また、たいへん申し訳ないことですが、保護者の皆様にはホームページ等の**動画で間接的に視聴していただく**ことをお願いしたこと。

(その3に続く)

# 行云流水

No. 115 令和3年10月21日発行

## 心に向き合う その3

校長 寒河江 正人

(その2より続く)

そして、こう続けました。

**「こうして君たちに正直に説明したけれども、うまく伝えられたという自信はありません。人間には、一人ひとり感情があるので、100人いたら100通りの感情があります。その100人すべてを納得させられるとは思っていません。しかし、これは、生徒の健康と生命の安心安全を最優先に判断する「学校の経営者」としての「決定事項」です。」**と説明しました。

そして、

**「君たちが相談に来てくれてうれしかった。思い切って相談しに来てくれたので、私も校長として、正直にすべてを説明しました。次は、君たちが他の生徒たちに伝える番です。よろしく頼みますよ。それが紳士協定というものです。」**と3人に話しました。

校長として、うれしかったのは、自分が思ったことを「**不遜な無礼な態度**」ではなく、「**しっかりと礼儀正しく対話できる**」生徒であるということです。そういう生徒をもつことができたことは、**校長としてうれしいこと**です。

**「いずれ君たちが大人になったとき、若者から何か問われたら、逃げずごまかさず、しっかりと向き合える大人になってくださいね。」**とお願いも添えました。

3人とも深々とお辞儀をしながら、「**今日は、ありがとうございました。**」とあいさつして退室しました。

その後、3年主任の斉藤哲也先生とこのうれしい話をしました。

ありがとう。安藤翔生<sup>あんどうしょうせい</sup>くん、設楽巨陽<sup>したらあさひ</sup>くん、斉藤暖空<sup>さいとうはるか</sup>くん。

**深まる秋。いい一日のしめくくりになりました。さあ、あと10日。合唱交流会の当日が楽しみ**です。  
(その4に続く)

# 行雲流水

No.116 令和3年10月21日発行

## 心に向き合う その4

校長 寒河江 正人

(その3より続く)

設楽旦陽<sup>したらあさひ</sup>くんからの「学年や学級の先生以外の方から講評をいただきたいです。」といった旨の相談を受け、校長として、**建設的な意見**だと感じ、早速、**人選と交渉**に入りました。

これは、昨日、交渉したその際に**大先輩から伺った言葉**です。  
その方は、**学生時代から「合唱」に取り組んでこられた造詣の深い方**です。

その方は、私にこうおっしゃいました。

**「合唱コンクールの審査だったら、お断りします。  
そもそも、それぞれの学級が気に入って選んだ思い入れのある楽曲のはずです。」**

**「それぞれが違う楽曲なのだから、それぞれの学級・それぞれの思い・それぞれの出来で  
その楽曲を味わい、そのハーモニーを楽しめればいいんです。  
大切なのは、自分たちが選んだ楽曲への思い入れ・自分たちなりの納得の仕方なのです。」**

**「それを一律に比べることで、優劣をつけ、賞を決めるなんてナンセンスだと思います。」**

**「合唱は、芸術。芸術を評価することは難しいものです。」**

**「そもそも、コンクールという形式で競争をあおること、そのものが、いかななものか。」**

**「それぞれが、それぞれで納得できればいいのです。」**

**お互いが、お互いの良さを認め合うことこそ、価値あることなのです。**

**それ自体が慕いのだという価値をもっと大切にすべきだと思います。」**

そこで「本校の合唱交流会のねらい」をお話ししたら、「わかりました。それならOK。」  
「それぞれの学級の出来映えについての講評（良かったところのコメント）ならば、  
喜んでお引き受けし、神町中学校におじゃまします。」とおっしゃられました。

また一つ「大切な価値」を教えていただいた気がします。